

明智光秀

2025.9.26

明智というと、浮かぶのは明智光秀と明智小五郎だろうか。明智光秀は、歴史上の有名な人物である。世の人は、どのような見方をしているかはわからないが、明智光秀という人物を嫌いではない。単なる謀反人とは見てはいない。

明智光秀に子孫がいることを知った。本能寺の変を受け、備中高松城から引き返してきた羽柴秀吉の軍と、織田信長を討った明智光秀の軍勢が激突した山崎の戦いで、明智軍は敗れた。このとき、歴史の習いにのっとり、明智一族は途絶えたものと思っていた。

ところが、明智光秀の子の於雀丸が山城国の神社に匿われた。その後、姓を明田と変えて代を重ねてきたというではないか。明治時代になった。その当時の明田潔という人が、このまま明田姓で代を重ねると、光秀から連綿と続いてきた家系を忘れててしまいかねないと危惧して復姓を決意する。家には系図など伝承品があり、それを証拠の品として提出し、明智への復姓が認められたとのことだった。この経緯は、当時の新聞記事にもなった。ここから子孫には、明智姓であることが呪いのように重く心にのしかかることになる。

本能寺の変の定説は、江戸時代の軍記物という物語に書かれたものにすぎない。こういったパターンはよくある。光秀謀反の動機とされてきた怨恨説や野望説は、豊臣秀吉に仕えた人物が記した書物の創作にすぎない。織田信長と深い親交のあったイエズス会の宣教師による報告書がある。それによると、光秀謀反の動機は、信長の唐入り（中国への侵出）を阻止し、太平な世をつくることだったようである。

戦前のことになる。日本軍部は『日本戦史』を編纂し、秀吉は国家の英雄、光秀は極悪人というイメージを国民に広く植えつけた。日本人は、こういった構図を好む傾向がある。

歴史はわからない。中学時代に学習したことが、どんどん変わってきている。過去は変わらないはずなのに、研究が進めば進むほど、歴史は変わっていく。本能寺の変の真相はわからない。果たして、織田信長は本当に本能寺で討たれたのか。こんなことを考えていると、源義経のように海を渡ってチンギスハンになってしまふ。だが、考えているとおもしろい。

勝敗や運命の重大な分かれ目のことを天王山ということがある。天王山とは、小丘というか山である。この麓で山崎の戦いが行われた。天王山の占有が勝敗を左右した。天王山の語源である。明智光秀は、天王山となる一戦で敗れてしまった。明智光秀が単なる謀反人だとは思えない。明智の名を継ぐ子孫の方々は、どのような思いを抱きながら生きてきたのだろう。想像もつかない。歴史とは、人の生き様である。おもしろいし、奥深い。そこから学べることは多い。